ハンドテスト・セミナー2024　参加者アンケート　訂正加筆　2024年9月6日

セミナーへの要望	回答
今回の基礎講義、スコアリング、解釈の構成がとても分かりやすかったので、引き続き続けていただけると助かります。	今後，実施・スコアリング・解釈法についての基礎講習の会と，事例検討研修とを別々に開催していくことも検討したいと思います。
丁寧なご教示ありがとうございました。山上先生のｐｐのレジメをいただきたいのですが・・・。よろしくお願いいたします。	山上榮子先生のハンドテスト解釈資料を会員限定ページにてダウンロードできるようにさせて頂きました。ご活用ください。
グループディスカッションの際に風景構成法の画像を共有し、見ながら議論したかった。	今回，風景構成法画像を画面共有での提示に限定させて頂きましたが，事前に回収資料として郵送しておく方法もあったとかと思います。今後検討させて頂きます。
ありがとうございました。zoomで参加しやすいのですが、参加者同士の交流ができるよう対面式も良いのかなと思いました。	将来的には(もう少し会員が増えてきたらでしょうか・・・），対面＋ライブ配信のハイブリット開催も検討していけたらと思います。

事例に関する質問・コメント	回答
どのような施設に退所予定か	施設への入所ではなく，公営住宅にて，家族での自立生活を開始する予定です。
風景構成法とのテストバッテリーは、時間や道具の制限も少なくやりやすいように感じました。今回の事例では、現実面での適応と心理的な状態を併せてアセスメントされていて、クライエント理解が深まってとても良かったと思います。 また、2回目の結果でCOMが出なくなっていたこと、巻き込まれ反応が増えていたことなどは私も気になっていました。対等な関係、相互的コミュニケーションの難しさについては、クライエントが幼少期から現在まで、安定的な対人関係を構築し安心感を得られなかったであろうことが影響しているのかなと感じました。情緒の不安定さもそのあたりが影響しているように思います。これまで解離して保っていた部分が、今後現実に直面していく中でどうなっていくかが気がかりです。支援の中ではCOMを増やす関わりを意識しつつ、現実的に何ができるかを話し合いながら考えていくことで、生活を安定させていけると良いのではないかな…と思いました。貴重なお話をありがとうございました。	貴重なコメントありがとうございます。今後の支援のあり方についてもご指摘いただき，セミナーの中では十分に話題にできなかった点について補足頂くことができたと思います。事例Aさんの危うい自己感や不安定な対人距離の問題を理解した上で，具体的・現実的な対人交流をどう構築していくか，本事例にとっての一番の支援課題だと云えます。

質的スコアのIMP無カとPER困惑は，反応内容そのものに対するスコアではなく，自己の無カさの表明や，困難な課題に対する狼狽に対してスコアするため，反応失敗(FAIL)の場合でもスコアを付すことになっています。AUT自動句も，もともと反応内容そのものに対するスコアではなく，繰り返される一連のフレーズに対するスコアのため，反応失敗であったとしてもスコアできると考えられます。
ただし，今回の「済みません」は，AUTとスコアするにはややニュアンスが異なると云えます。

ハンドテストに関する質問	
1回目も2回目も「すみません」が口癖なのかよく出てきました。私はAUTとして質的スコアにつけたのですが、これはFAILの中で出てきているので、スコアしないのでしょうか？ この方の特徴としては、よく出ていると思ってつけたいのですが、どうでしょう。 教えてください。	質的スコアのAUT(自動句)は，PiotorwskyのOrganic Signに基づくスコアですので，脳器質障害による症状と考えられるような，自動的（機械的というニュアンスの方が伝わるでしょうか。不安や緊張，もしくは心理的な機制による口癖とは若干異なり，時と場合に限らず本人には不可避的な決まり文句になります）な言語表現に対してスコアすることになります。今回の「済みません」は，自動的な反復(AUT)というよりは，他者に対して遠慮がちで，へりくだったり，おもねたりする事例Aさんの態度の表れと解釈できるのではないかと思います。 質的スコアは，反応の質的ニュアンスを解釈するためのスコアですので，反応そのものが無い場合（FAIL反応失敗だった場合），反応内容に対してスコアすることができないため，質的スコアを付けることもできないと考えられます。しかし，こうした反応態度や検査者との関係の持ち方などは，反応失敗の場合にも解釈の材料として継列分析において役立てられると考えられますので，スコアを付ける，付けないにこだわらず，解釈に役立ててもらえればと思います。
1点質問なのですが、ハンドテスト(2回目)Ⅷカードにおいて、検査者が〈例えば？〉と問うた前後の反応を一つの反応としてまとめて捉えるのではなく、⑧と⑨という風に分けて捉えた意図やお考えがあれば教えて頂きたいです。	ハンドテストのスコアリングは，「一つの反応に一つのスコア」というより，「一つの行為（知覚）に対して一つのスコア」を付けるということになります。例えば，「握手。あ，左手だからそれは無しで，待てですね」という反応において，「握手は無し」と言っていますが，握手という行為を知覚しているので，スコアは①AFF(DEN)と，②DIRの二つになります。このように反応している中で別の行為が知覚された(別のスコアが付けられる)場合は，別のスコアを付けていくことになります（『臨床ハンドテストの実施』p34に例が説明されています）。ただし，最初の反応だけではスコアリングが不明で，最終的な目的や意図が明らかになって初めてスコアが可能になるような場合は，最終的な目的や意図に基づいてスコアすることになります。今回，最初の「掴む」と「髪を掴まれる」は，明らかに反応が変化したと考えられたため，別のスコアを付けています。